

PRAP JAPAN, Inc.

第40期 株主通信

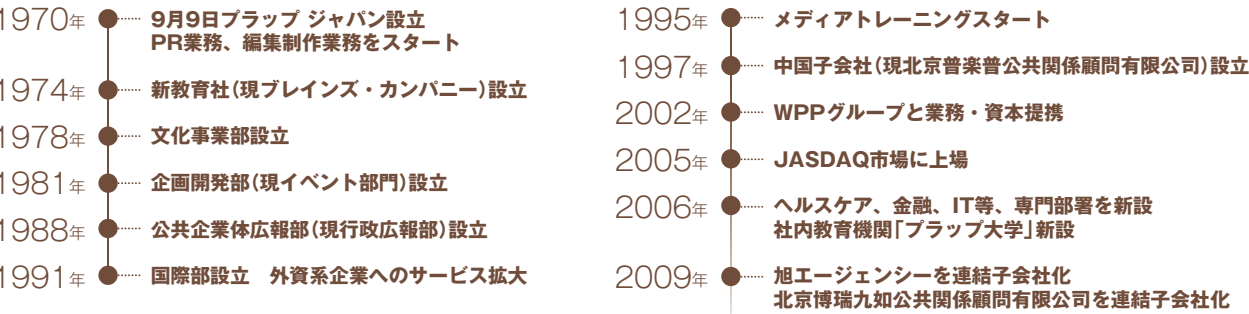
平成21年9月1日 ➡ 平成22年8月31日

株式会社プラップ ジャパン

証券コード：2449

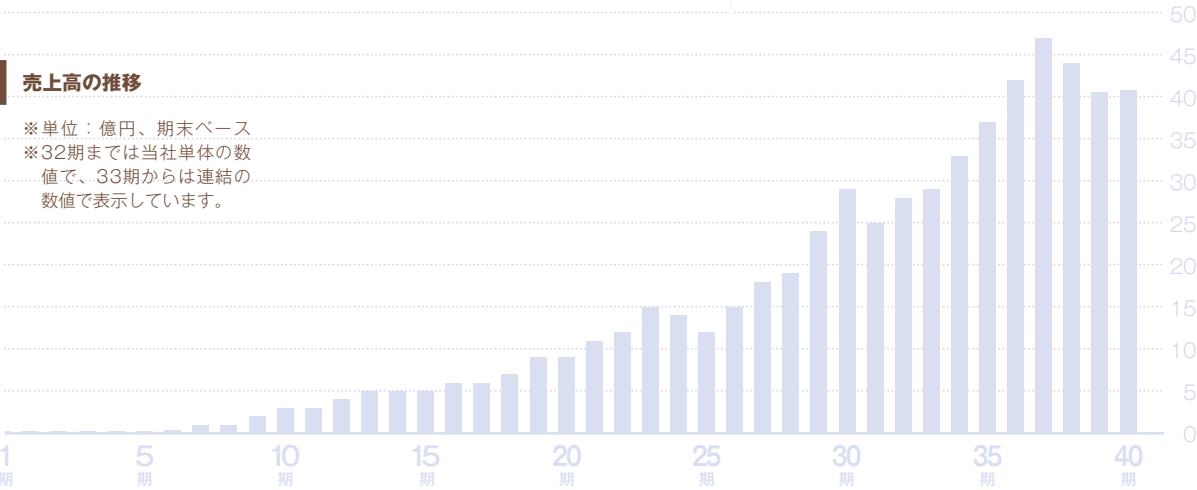
設立40周年 ― 成長の軌跡

主なトピックス



売上高の推移

※単位：億円、期末ベース
※32期までは当社単体の数
値で、33期からは連結の
数値で表示しています。



PRトレンドの変遷



Message from **chairman**

おかげさまで当社は設立40周年を迎えることができました。

長い年月がかかりましたが、やっと広報・PR活動の意味と役割が社会に理解されはじめてまいりました。しかし欧米に目を向ければ、コミュニケーションビジネスの先進国には1,000億円規模の売上をあげているPR会社が多くあります。これらの企業は世界にネットワークを張り巡らし、グローバルなPR活動を展開しているのです。

私共は13年前に中国市場に目を向け、進出する日本企業のサポートを行ってきましたが、いま収穫期を迎えつつあります。日本の企業は、今や市場を世界に求めざるを得ない環境下にあります。そしてグローバルに展開するためには、その国固有の文化・歴史状況を理解して、支持を得る活動が必須です。この活動を支援していくことが当社の役割であり、今後は中国以外の国でも日本企業のサポートをするため進出しなければならないと考えています。

新しい次元に入ったPRビジネスの発展のため、力を尽くしていく所存でありますので、これからも皆様の温かいご理解とご支援をいただきたく、お願い申し上げます。

平成22年11月
取締役会長 矢島 尚

コミュニケーション活動の進化を的確に捉え クライアントのPR戦略ニーズに応じてまいります

代表取締役社長 杉田 敏



Q 当期(平成22年8月期)の営業展開は？

A 企業ニーズの高いマーケティングPR分野や
高利益率のコンサルティング業務を着実に受注
期首から新サービスを積極的に投入

依然として先行き不透明な景気動向の中で、マーケティング効果の高いPR戦略を求める企業は、ますます増加しています。しかしながら、経営環境の厳しさから企業内でのコスト意識は高く、広報予算の支出に対する抑制傾向が続いています。

そうした状況の下、当期は既存顧客への営業深耕を継続しつつ、新規引き合いが増加しているマーケティングPR分野の受注活動に注力していきました。また、メディアトレーニング業務や危機管理コンサルティングサービス、新たなサービスとしてスタートした企業再生コミュニケーション業務など、利益率の高いコンサルティン

グ中心の業務を着実に受注すべく努めました。

いくつかの新サービスも期首より積極的に取り組み、中でも中国検索エンジン最大手「百度（バイドウ）」との提携による「China Express-中国特快-」や、中国人観光客をターゲットとしたオンライン販促クーポン配布サービス「China Express Coupon」などは、対中国事業に活路を見出す日本企業からの問い合わせも多く、受注につながっています。

Q グループ会社の状況と連結業績は？

A 国内・海外ともにグループ会社が好調
増収増益により連結業績に貢献

国内のグループ会社においては、株式会社ブレインズ・カンパニーがレギュラークライアントおよびプロジ

ェクト業務の新規獲得を推し進め、株式会社旭エージェンシーも堅調な売上を確保した結果、両社ともに増収増益を果たしました。

一方、海外のグループ会社は、北京博瑞九如公共関係顧問有限公司（ブレインズチャイナ）が、昨年末から株式会社ブレインズ・カンパニーの子会社となり、新たにグループに加わりました。また、北京普楽普公共関係顧問有限公司（プラップチャイナ）は受注増に対応し、人員を増強させました。中国事業は、この2社体制により中国市場での事業強化を図る日本企業からの受注獲得が進み、増収増益となりました。

以上の成果により当期の連結業績は、売上高4,045百万円（前期比0.0%増）、営業利益476百万円（同24.7%増）、経常利益460百万円（同21.1%増）、当期純利益250百万円（同23.3%増）となりました。

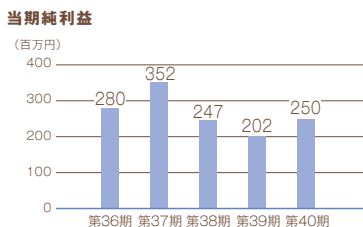
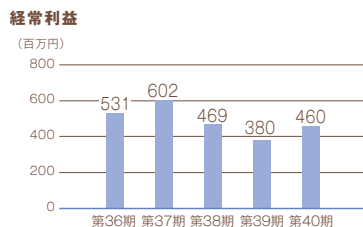
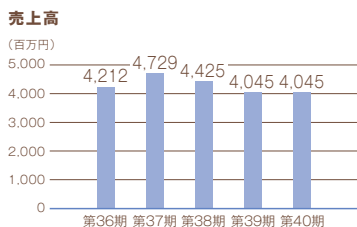
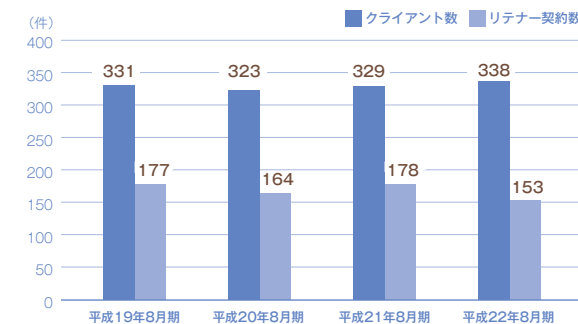
Q 次期(平成23年8月期)の見通しと業績予想は？

A 競合環境下での受注確度向上が必須
顧客ニーズに応えた高品質なサービスを提案

次期においても、PR会社を戦略的に活用する傾向が期待され、新規の引き合いは引き続き堅調に推移するものの、国内企業の広報予算の抑制傾向や業務のスポット化、競合環境における価格競争、大型PRイベント等の減少などが想定されています。また、中国子会社2社については、為替レートの不確定要素等をはらんでおり、株式会社旭エージェンシーも為替の影響を少なからずうけることが想定されることから、グループ事業についても、慎重な予想としています。

こうした事業環境を乗り越えていくためには、既存、新規ともに顧客ニーズを的確に捉え、営業活動のさらなる強化とともに、高品質なサービスを堅持し、競合環境下での受注確度を高めていくことが必須であると考えています。

クライアント数の推移



以上を踏まえ、次期の連結業績については、売上高3,923百万円（前期比3.0%減）、営業利益441百万円（同7.3%減）、経常利益434百万円（同5.5%減）、当期純利益199百万円（同20.1%減）と、慎重に予想しています。

Q 持続的に成長していくための経営課題は？

A 企業への営業深耕と高付加価値サービスの開発に注力
グループ事業の拡大を積極的に展開

まず、受注強化です。景気の先行きが依然不透明な状況の中で、業務の受注確度を高めていくことは、重要な課題です。そのために、既存顧客への営業深耕と契約継続のためのさらなる信頼感の醸成、新規顧客への的確な提案、質の高いサービス提供に取り組んでいます。加えて、昨今のメディア環境の急速な変化を捉えたソーシャルメディアを活用したコミュニケーションサービスの開発や中国マーケティング施策サービスの展開など、顧客ニーズに即した、高付加価値・高収益なサービス開発も積極的に取り組んでいく方針です。

また、グループ事業の拡大に向けて、新たなM&Aおよび業務提携の推進や、中国事業の拡大、日本企業のグ

ローバル化にあわせたコミュニケーション活動支援へ積極的に展開したいと考えています。

Q 株主の皆様にはメッセージを

A 戦略的コミュニケーションコンサルタントとして
新サービスの開発と人材獲得・育成を推進

当期の期末配当については、業績の順調な回復を反映して増配し、1株当たり21円（前期は同19円）とさせていただきます。次期につきましても、さらなる増配を実施できるよう努力してまいります。

当社は今後、全社員が「戦略的コミュニケーションコンサルタント」として、クライアントの様々なコミュニケーション戦略ニーズに応えていくことを基本方針に事業を推進していく考えです。その取り組みの中で、新サービスの開発と優秀な人材の獲得・育成を積極的に進め、事業成長を加速させるとともに、収益力の向上と株主価値の増大に努めてまいります。

株主の皆様におかれましては、引き続き一層のご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

Point

スキルアップ研修 ～デジタル・コミュニケーション

コミュニケーションの世界において日々重要性が増しているデジタル・コミュニケーション領域。この分野において近年目覚ましい進歩を遂げているのが中国です。8月上旬上海に当社グループ(ブラップジャパン、ブレインズ・カンパニー、旭エージェンシー、ブラップチャイナ、ブレインズチャイナ)および現地協力会社から50名が集結し、合同研修会が実施されました。

研修会ではデジタル・コミュニケーション領域における現状や最新のサービス、数多くの成功事例等を学び、新サービスの検討、既存サービスへの応用など様々な議論が交わされました。この研修での経験は全てのグループ会社のデジタル・コミュニケーション領域における企画・サービス等に反映され、グループで掲げる高付加価値サービスの開発へとつなげていきます。



Topics 1

プロクター・アンド・ギャンブル(P&G)社の Asia ER Agency Excellence Awards において「Collaboration Award」を受賞！

プロクター・アンド・ギャンブル(P&G)社が制定したAsia ER Agency Excellence Awardsにおいて「Collaboration Award」を当社のSK-II担当チームが受賞しました。これは、平成22年1月26日に実施したSK-II 30周年記念グローバルイベントを成功に導いた活動実績が高く評価されたものです。さらに、当社のP&Gビューティーケア担当チームは昨年も受賞した「P&G Best Partnership Award」を2年連続で受賞しています。



Topics 3

当社連結子会社 株式会社ブレインズ・カンパニーが 中国法人を子会社化

北京博瑞九如公共関係顧問有限公司の子会社化（当社の孫会社化）により中国における日本企業の広報支援業務のさらなる拡大を図り、様々なクライアントに幅広く高付加価値なコミュニケーションサービスを提供できる体制を構築してまいります。

BRAINS
China

Topics 2

慶應義塾大学にて「ブラップジャパン寄附講座 広報・PR論」を開講、実践的・戦略的な広報・PRについて学ぶ機会を提供

設立40周年を機に著名なジャーナリストやメディア業界で活躍する人材を数多く輩出してきた慶應義塾大学メディア・コミュニケーション研究所にて「ブラップジャパン寄附講座 広報・PR論」を開講しました。この寄附講座は、マス・メディア業界、広報・PR業界への就職希望者やコミュニケーションを学ぶ慶應義塾大学の学生を対象とした計26回の講座です。各講座では、広報・PRを長年に渡り手がけてきた当社がこれまで培ってきたノウハウや経験を活かし、学問の域を超えてより実践的・戦略的な広報・PRについて学ぶ機会を提供していきます。



Topics 4

デジタル・コミュニケーション戦略に対応する 新部門を設立

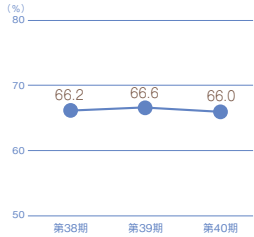
日々変化し続けるデジタル・コミュニケーション領域において顧客ニーズを捉えた高付加価値なサービスの確立を目指す目的で、Web制作部門をWebコミュニケーション戦略を展開する「Webコミュニケーション部」に拡大。また、クライアントからニーズの高まっているソーシャルメディアを活用したコミュニケーション戦略の企画立案、新サービスの開発を担う部門としてDI(デジタルインフルエンス)事業推進室を設立いたしました。

Pick Up

1 自己資本比率 66.0%

健全な財務体質

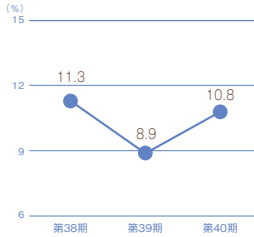
自己資本比率は当期66.0%を示しております。当社は平成22年8月31日現在、有利子負債ゼロの無借金経営を行っており、ここ数年の推移を見ても自己資本比率は安定的に推移しております。当社は今後も健全な財務体質を維持しながら安定した経営を行っていきます。



2 ROE 10.8%

成長を支える高収益構造

健全な財務体質とともに高い収益性を確保している点も、当社の特徴の一つです。当期のROE(自己資本利益率)は前期に比べ収益面が改善した影響もあり、前期比1.9ポイント増の10.8%となりました。今後も優秀な人材を獲得することで成長性を加速し、ROEのさらなる向上を目指します。



連結貸借対照表

(単位:千円)

科 目	当 期 (平成22年8月31日現在)	前 期 (平成21年8月31日現在)
資産の部		
流動資産	2,882,146	2,717,081
固定資産	612,308	743,247
有形固定資産	58,929	69,848
無形固定資産	38,713	45,492
投資その他の資産	514,666	627,907
資産合計	3,494,455	3,460,329
負債の部		
流動負債	713,212	714,954
固定負債	428,238	415,158
負債合計	1,141,450	1,130,112
純資産の部		
株主資本	2,348,426	2,341,258
資本金	470,783	470,783
資本剰余金	374,437	374,437
利益剰余金	1,738,694	1,577,526
自己株式	△235,489	△81,489
評価・換算差額等	△40,972	△38,396
少数株主持分	45,551	27,353
純資産合計	2,353,004	2,330,216
負債純資産合計	3,494,455	3,460,329

連結損益計算書

(単位:千円)

科 目	当 期 平成21年9月 1 日から 平成22年8月31日まで	前 期 平成20年9月 1 日から 平成21年8月31日まで
売上高	4,045,425	4,045,059
売上原価	2,856,477	2,918,323
売上総利益	1,188,947	1,126,736
販売費及び一般管理費	712,159	744,426
営業利益	476,788	382,309
営業外収益	16,578	24,977
営業外費用	33,130	27,277
経常利益	460,235	380,009
特別利益	1,038	238
特別損失	69	10,928
税金等調整前当期純利益	461,204	369,320
法人税、住民税及び事業税	205,574	158,583
法人税等調整額	△18,125	△6,059
少数株主利益	23,727	14,050
当期純利益	250,028	202,745

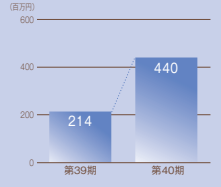
連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:千円)

科 目	当 期 平成21年9月 1 日から 平成22年8月31日まで	前 期 平成20年9月 1 日から 平成21年8月31日まで
① 営業活動によるキャッシュ・フロー	440,452	214,397
② 投資活動によるキャッシュ・フロー	139,961	△4,194
③ 財務活動によるキャッシュ・フロー	△253,792	△157,602
現金及び現金同等物に係る換算差額	△6,905	△7,606
現金及び現金同等物の増加額	319,716	44,993
現金及び現金同等物の期首残高	1,702,306	1,657,313
現金及び現金同等物の期末残高	2,022,023	1,702,306

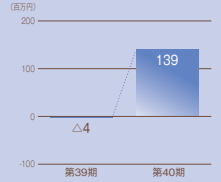
① 営業活動によるキャッシュ・フロー

- 税金等調整前当期純利益 461百万円 (前期は369百万円)
- 売上債権 180百万円 (前期は42百万円)
- 法人税等の支払額 △227百万円 (前期は△160百万円)



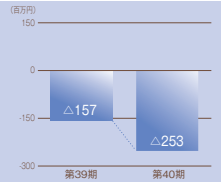
② 投資活動によるキャッシュ・フロー

- 投資有価証券の取得による支出 △30百万円 (前期は△86百万円)
- 差入保証金の差入による収入 92百万円 (前期は12百万円)



③ 財務活動によるキャッシュ・フロー

- 自己株式の取得による支出 △154百万円 (前期は△25百万円)
- 配当金の支払額 △86百万円 (前期は△79百万円)



連結株主資本等変動計算書

当期 (平成21年9月1日から平成22年8月31日まで)

(単位:千円)

	株主資本					評価・換算差額等			少数株主持分	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	その他有価証券 評価差額金	為替換算 調整勘定	評価・換算 差額等合計		
前期末残高	470,783	374,437	1,577,526	△81,489	2,341,258	△34,259	△4,137	△38,396	27,353	2,330,216
当期変動額										
剰余金の配当			△86,644		△86,644					△86,644
当期純利益			250,028		250,028					250,028
福利基金			△2,216		△2,216					△2,216
自己株式の取得				△153,999	△153,999					△153,999
株主資本以外の項目の 当期変動額 (純額)						1,844	△4,421	△2,576	18,197	15,621
当期変動額合計	—	—	161,167	△153,999	7,167	1,844	△4,421	△2,576	18,197	22,788
当期末残高	470,783	374,437	1,738,694	△235,489	2,348,426	△32,414	△8,558	△40,972	45,551	2,353,004

For Investors

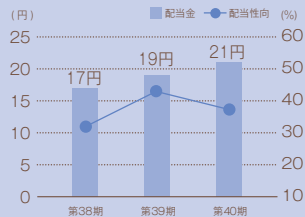
個人投資家向けIR活動



個人投資家向けIR活動の一環として、7月14日(大阪)・7月15日(東京)の2日間、社団法人日本証券アナリスト協会主催の個人投資家向け会社説明会に参加しました。
大阪会場86名、東京会場112名の投資家の皆様にご参加いただき、ビジネスモデルや当期のト

ピックスについて活発な意見交換が展開され、当社およびPRビジネスへの強い関心を感じる説明会となりました。
当社は今後もIR活動のさらなる充実を通して、株主・投資家の皆様と積極的なコミュニケーションを図ってまいります。

利益配分



当社の利益配分における基本方針として、株主の皆様に対する安定した配当を継続していただくだけでなく、将来の事業展開と投資計画のバランスをとりながら決定しております。その上で、経営成績および配当性向等も考慮し、株主の皆様への利益還元を実施していきます。

第40期の配当金につきましては業績の順調な回復、内部留保の順調な増加も鑑み、1株につき21円の普通配当と決定させていただきました(前期は普通配当19円)。
第41期の次期配当予想につきましても、1株につき23円の普通配当(連結配当性向45.5%)を予定しております。

会社概要 (平成22年 8 月31日現在)

会 社 名	株式会社ブラップ ジャパン PRAP Japan, Inc.
所 在 地	東京都渋谷区渋谷二丁目12番19号 東建インターナショナルビル
代 表 者	杉田 敏
設 立 年 月 日	1970年9月9日
資 本 金	4億7,078万円
従 業 員 数	260名(連結)
事 業 内 容	企業・団体・行政等の戦略的広報コンサルティングおよび広報代行全般を手がけ、PRイベント、PR誌制作等のクリエイティブサービスや対中国PR、WEB関連施策まで多彩なサービスメニューを有する総合PR会社。
連 結 子 会 社	株式会社ブレインズ・カンパニー 株式会社旭エージェンシー 北京普樂普公共關係顧問有限公司 北京博瑞九如公共關係顧問有限公司
業 務 提 携 会 社	オグルヴィ・パブリック・リレーションズ・ワールドワイド(WPPグループ)

役員 (平成22年 11月26日現在)

取 締 役 会 長	矢 島 尚
代表取締役社長	杉 田 敏
専 務 取 締 役	泉 隆
常 務 取 締 役	筆 谷 尚 美
取 締 役	富 山 雅 人
取締役 (非常勤)	小 山 純 子
取締役 (非常勤)	藤 田 実
監 査 役	松 本 一 郎
監 査 役	小 田 元
監査役 (非常勤)	藤 岡 秀 樹

株主メモ

事業年度	9月1日から8月31日
定時株主総会	11月中
基準日	8月31日
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社
特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 電話 0120-232-711 (通話料無料)
公告の方法	電子公告により、当社ホームページ (http://www.prap.co.jp/) に掲載いたします。 ただし、電子公告によることができない事故その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に掲載いたします。

- (ご注意) 1. 株主様の住所変更、買取請求その他各種手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
2. 特別口座に記録された株式に関する各種手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取次ぎいたします。
3. 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本店でお支払いいたします。
4. 平成22年4月1日付のジャスダック証券取引所と大阪証券取引所の合併により、当社普通株式は大阪証券取引所JASDAQ市場に上場されております。

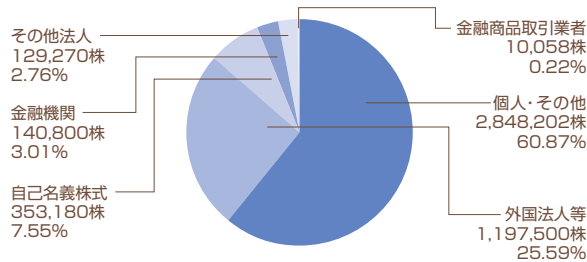
株式の状況 (平成22年 8 月31日現在)

発行可能株式総数	18,716,000株
発行済株式総数	4,679,010株
株主数	1,126名

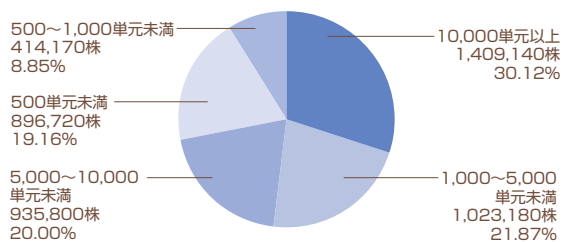
大株主 (上位10名)		
株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
矢島 尚	1,409	32.58
キャヴェンディッシュ・スクエア・ホールディングス・ビーヴィー	935	21.63
泉 隆	230	5.32
ノーザン・トラスト・カンパニー(エイブイエフシー)アカウント・ノン・トリーティー	200	4.62
杉田 敏	140	3.24
株式会社三菱東京UFJ銀行	100	2.31
矢島 婦美子	90	2.08
三菱UFJキャピタル株式会社	79	1.83
ブラップジャパン従業員持株会	75	1.73
野村 しのぶ	70	1.62

- (注) 1. 当社は、自己株式353,180株を保有しておりますが、上記の大株主からは除いております。
2. 持株比率は自己株式を控除して計算しております。

所有者別株式分布状況



所有数別株式分布状況



プラップ ジャパンと中国検索エンジン 最大手「百度(バイドゥ)」によるマーケ ティング支援パッケージの第2弾

China Express
中国特快 Coupon

7月からの中国人観光客向けピザ発給条件の緩和を受け、訪日中国人観光客を取り込む小売店や飲食店、観光施設向けの
新サービスとして「China Express Coupon」をスタートしました。

1 ターゲットを訪日中国人観光客に特化した「販促クーポン配布」施策

新サービスは、ターゲットを「訪日中国人観光客」に絞った販促施策で、サービス導入の対象は、中国人観光客の来店増や販売促進を目指す、日本の
小売店や観光施設、製品メーカーを想定しています。

2 訪日予定の中国人観光客に対して、訪日前に中国オンライン上でクーポン配布

中国で圧倒的No.1のシェアを誇る検索エンジン「Baidu.com」により、日本への旅行を検討したり、日本製品に関する情報などを検索する中国人を
囲い込み、店舗・施設等で使用できる販促クーポンをオンライン上で配布、日本でのクーポン利用による販売促進を狙います。

3 POSと連動することで、「いつ」「どこで」「何を」「いくら」買ったか、全てを可視化

オンライン上で配布するクーポンを、バーコードによりPOSと連動することで、クーポン使用者の来店店舗や来客人数、購買商品の傾向や消費
金額に至るまで、購買までの流れを数値で把握することが可能となります。

STEP1



日本情報を検索する中国人に広告表示
店舗情報・クーポンページへ誘導

STEP2



日本の店舗情報を確認
クーポンをプリントアウト

STEP3



クーポンの利用をPOSで計測
中国人顧客の動きをデータで可視化



株式会社プラップ ジャパン

〒150-8343 東京都渋谷区渋谷二丁目12番19号
電話番号：03-3486-6831